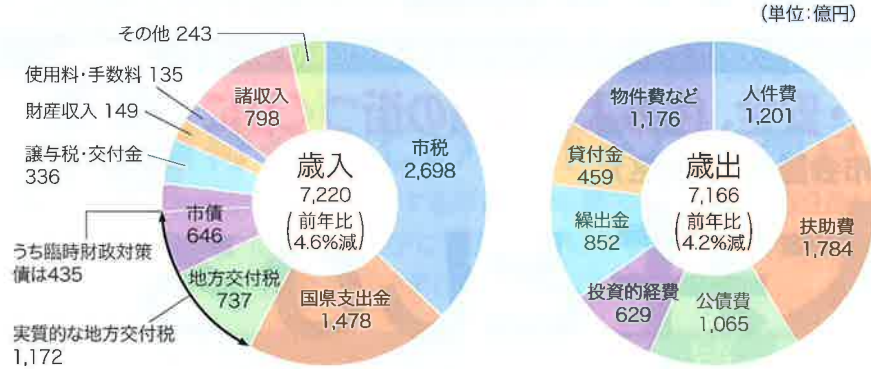


# 第3回定例市会報告

## ■一般会計歳入歳出決算(H23年度)



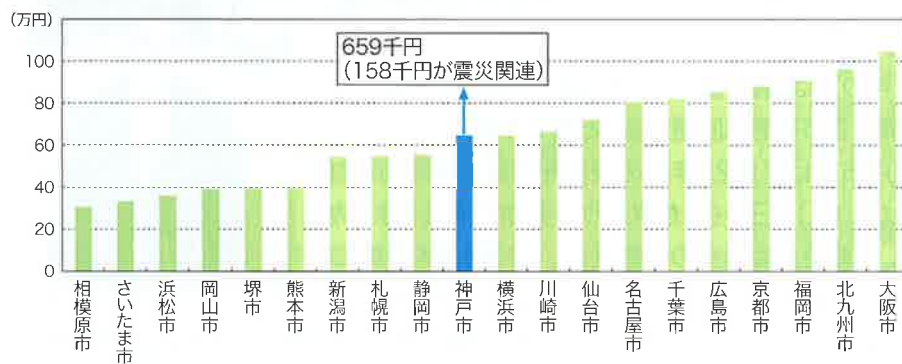
### 22億円の黒字に!

法人市民税が24億円の増となるなど、一般会計の実質収支は、土地を売るなどの財源対策によらずに震災後最大の22億円の黒字となりました。

### 地方交付税は37億円の減

地方交付税と臨時財政対策債を合わせた、実質的な地方交付税額は前年度に比べ、37億円の減となる1172億円となりました。税金が増えると交付税は減る仕組みですが、政令市で札幌、大阪に次いで、3番目に交付税に依存している状況です。

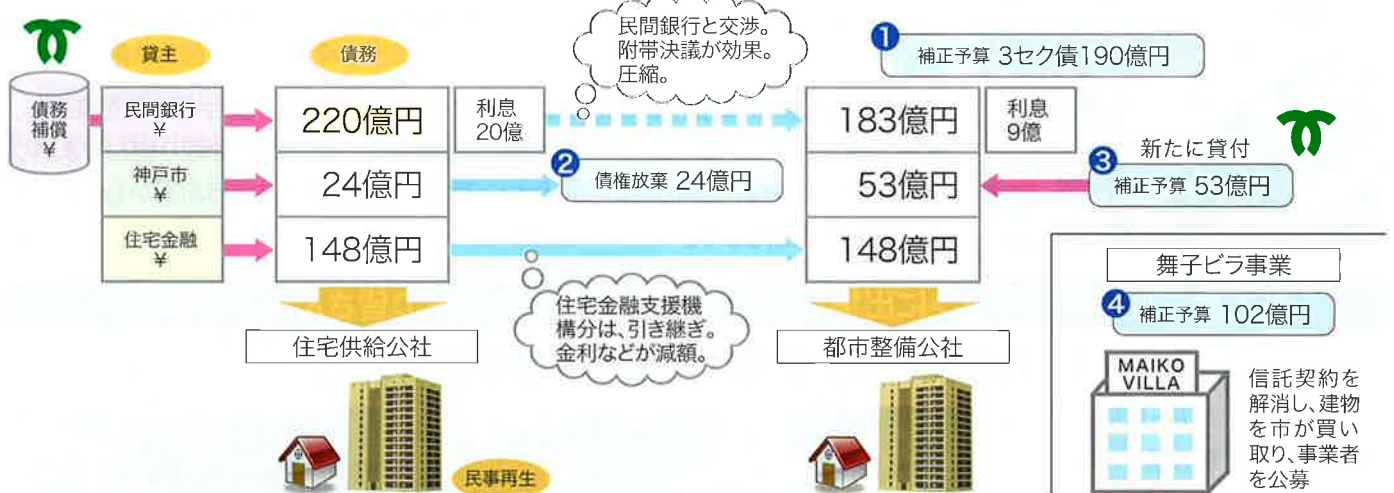
## ■市民ひとりあたりの市債残高比較(H23年度決算)



### 1人あたり市債残高は65.9万円

行財政改革を推進した結果、市債の発行を抑え、市債残高は着実に減少しています。一人当たりの残高は、震災関連を含めても、政令市で中位程度になっています。

## ■住宅供給公社・舞子ビラ事業について



### 第3回定例市会に提出された補正予算・関連議案

- ① 補正予算 3セク債発行 190億円
- ② 債権放棄 24億円
- ③ 補正予算 53億円
- ④ 補正予算 102億円

今後は、巨額の債務を引き継ぐことになる都市整備公社の2次破綻を絶対に阻止し、新しい事業者によって新規スタートとなる舞子ビラと共に、良好な経営で市民サービスの向上が図れるように議会としても監視の目を行き届かせるよう努めていきます。

外郭団体の事業見直しに伴う市民負担増が見込まれる今年度予算には、民主党神戸市会議員団は「附帯決議」を付して承認しました。

本定例市会には、関連して、左に示す補正予算など関連議案が4つ提案されています。

住宅供給公社の債務を整理して都市整備公社に引き継ぐに当たり、例えば銀行との交渉には「附帯決議」が一定の効果を果たし、合計300億円と予測された市民負担を263億円に抑えることができています。